

お寺にある素敵なものを、発信していきたい

# ユジュ

## 創刊号

平成 20 年 8 月 1 日発行

ユジュ

「YUJ」とは「瑜伽」とも書き、サンスクリット語で、「結ぶ、繋ぐ」を意味します。YUJを手にとった方とお寺が良い縁で結ばれますように。

神変大菩薩に始まり

智證大師が伝えた

三井修験の秘法

九月七日(日)、天台寺門宗別格本山 金倉寺に於いて、採燈護摩を厳修いたします。

金倉寺の採燈護摩供は、まず修験の先達衆が、道場まで境内を練り歩きます。入道が終わると、数人の旅の先達衆が現れ、「案内申、案内申」と呼びかけます。彼等は三井寺の先達衆で、ここで採燈護摩が行われていると聞いたので推参した、つい

# 採燈護摩

ては入場させて欲しい、と申し出ます。すると先導奉行が、同門であるならば修験の心得があるはずだと言って、問答によって山伏の字義、修験の宗旨、開祖、本尊、身につけた法具の意味を質し、最後に真の同門であると入道を許可します。

続いて法弓師が護摩壇正面で、悪魔を退散させる法弓の文を唱え、四方の悪魔の退散を求め矢を放ち、最後に鬼門に矢を放ちます。

次に宝剣師が護摩壇正面で宝剣を抜き、不動明王の利剣によって煩惱を断絶して覚に至る法剣の文を唱え、「光」字の筆順に沿って一画ずつ切り、諸の悪害を防ぎます。

次の斧師は鶏足山の山神に、斧で薪を切り、その木を採燈護摩で焼くことで、衆生を本来の姿に帰ることを願います。

採燈護摩終了後、火生

三昧、いわゆる火渡りが行われます。残り火をならして火床を作り、その火を伏して先達衆や信者が渡ります。この火渡りは大日如来の浄火の中を、行者が不動明王と成り渡ることを意味し、諸の不浄罪惡を降伏して利益を得ます。

以上のように金倉寺の採燈護摩は次第しています。今年も金倉寺の採燈護摩をお楽しみ下さい。



『修験道』宮家準  
講談社学術文庫

# 金倉寺

<http://www.kagawa-konzouji.or.jp/>

# WEB

金倉寺WEBのコンテンツを紹介いたします。「金倉寺」では、金倉寺の縁起を紹介しています。今後はお堂や仏像・仏画を紹介する予定です。「智証大師円珍」では、金倉寺で誕生された智証大師の略歴を紹介しています。今後はより詳しい

伝記を紹介する予定です。「乃木希典」では日露戦争の雄、乃木將軍の略歴を紹介しています。今後は金倉寺に残る乃木將軍ゆかりの遺品を紹介する予定です。また「お問い合わせ」からはメールも送れます。どうぞ御利用ください。

2007年9月15日に金倉寺のWEBがOPENしました。お寺の案内や行事予定などの情報を掲載しています。まだまだ未完成なWEBですが、末永くお付き合い下さいますようお願いいたします。

天台寺門宗別格本山

四国第七十六番霊場

鶏足山 金倉寺

[Home](#) | [年中行事](#) | [アクセス](#) | [リンク](#) | [お問い合わせ](#)



鶏足山 金倉寺  
智証大師・乃木將軍ゆかりの寺

## 金倉寺について



金倉寺は智証大師円珍の祖父和氣道善により宝龜五年（七七四年）に創建されました。ここでは金倉寺の歴史や縁起について紹介いたします。

## 智証大師円珍ご生誕地



天台寺門宗の宗祖であり、弘法大師の姪の子息でもある智証大師円珍は金倉寺でご生誕されました。ここでは智証大師の足跡を紹介いたします。

## 乃木將軍寓居の地



明治時代を代表する軍人、乃木希軍が善通寺第十一師団長であった当時、金倉寺に寓居されていました。ここでは乃木將軍ゆかりの品々を紹介いたします。

## お知らせ

- 2008年 4月 11日 春市こどもまつりの情報を公開しました。
- 2007年 9月 19日 年中行事のページを新設しました。
- 2007年 9月 18日 お問い合わせよりメールフォームにてメールが送信できるようになりました。
- 2007年 9月 15日 金倉寺のホームページを公開いたしました。

金倉寺のWEBでは「年中行事」の案内も掲載しています。今回はこちらの誌面で、行事の内容を紹介したいと思います。

二〇〇八年八月以降の金倉寺の行事を紹介いたします。

八月二十三日(土)に「金倉寺地藏縁日法要」と二十八日(木)に「金倉寺燈籠供養」が行われます。

続いて九月の六日(土)・七日(日)には、恒例の「円珍乃木祭」が開催されます。「万灯会」、「採燈護摩」の法要の他にも、今年も多くの行事が予定されていますので、皆さん奮って御参加ください。

十月二十八日(火)には、「智証大師御祥忌」が、また十二月二十三日(火)には「天台大師御報恩講」が行われます。天台宗にとって多大な貢献をされた両大師の御遺徳を偲び、法要を厳修いたします。

八月二十三日(土) 金倉寺地藏縁日法要

現世に生きる人々とはもとより、地獄の人々をも救済し利益すると言われ、また子供の守り神としても信仰される地藏菩薩の縁日に行われる法要です。

八月二十八日(木) 金倉寺燈籠供養

初盆の方々の追善回向を行い、併せて燈籠の供養も行います。



九月六日(土) 円珍乃木祭 万灯会



九月六日(土) 円珍乃木祭 万灯会  
金倉寺で唯一夜に行われ、本堂の薬師如来、不動明王、阿弥陀如来の三尊に対して、様々な願いを込めた蠟燭を灯し、その成就を祈願いたします。

九月七日(日) 円珍乃木祭 採燈護摩

特集しました採燈護摩供です。火渡りには一般の方も参加できます。



十月二十八日(火) 智証大師御祥忌会

天台寺門宗の祖である智証大師円珍は、貞観十年(868)六月三日、安惠の後を受けて第五代天台座主に勅任され、以後二十四年間、仏法興隆に尽力されました。そして寛平三年(891)十月二十九日に入寂されました。金倉寺では毎年、御命日の前日である十月二十八日に法要を行います。

十二月二十三日(火) 高祖天台大師御報恩講  
天台大師智顛は中国南北朝時代に生まれ、法華経と止観を中心とした天台宗を立宗されました。中国仏教を大成した功績から「中国の小釈迦」とも呼ばれた天台大師は、開皇十七年(597)十一月二十四日(旧暦)に入寂されました。金倉寺では毎年、十二月二十三日に法要を行います。





# 気になる？、 気になる！

その一、不動明王

このコーナーでは、金倉寺に関わる気になることについて紹介していきます。記念すべき第一回は、九月に行われる採燈護摩にちなんで、不動明王についてお話したいと思えます。

不動明王は、密教において大日如来が姿を変えた使者で、明王の中でも最高位の明王です。

そもそも、明王とは密教特有の仏です。「普く一切の衆生を教化して救済せよ」という大日如来の命令を受け、特に救い難い衆生を威嚇・屈伏させて、悟りへ導くことを使命とします。だから髪を逆立て、

口を開き、牙をむき出しにして睨み、手には様々な武器を持ち、背後には怒りの象徴でもある炎を背負っています。しかし、その炎は同時に衆生の煩惱を焼き尽くし、その形相は衆生を救済し、悟りに導くための手段に過ぎません。

一方で、不動明王の多くは、子供っぽい顔立ち・体型をしていますよね。その理由は、密教の主要經典に、大日如来の使者として、子供の姿をしているという、姿形が与えられているからです。

そうしたことから、仏師達は、怒りの表情の中心をにじませようかと苦心したようです。その結果、様々な表情の不動明王が存在するようになったのではないのでしょうか。



『仏尊の辞典』  
関根俊一 学研

# 小僧さん の 自習室

その1. 天台宗って？

このコーナーでは小僧さんと共に仏教って何？を探っていきましょう！

四国八十八ヶ所の一つである金倉寺は、真言宗のお寺と思われる方も多いようです。しかし金倉寺は、天台寺門宗という天台系のお寺です。ところで宗派って何？

例えば先の真言宗と言えば「密教」。浄土宗・真宗と言えば「南無阿弥陀仏」。禅宗と言えば「坐禅」。日蓮宗と言えば「南無妙法蓮華經」とお坊さんのお勤めを答えられそうです。これが宗派の答えとなる宗旨、つまり各宗派が最も大事とする教えなのです。では天

台宗はどうでしょうか？

天台宗では四宗兼学といって、円・密・禅・戒の四つも宗旨があります。欲張りですよ(笑)。円はお釈迦様が説いた最上の教え、密は密教、禅は坐禅(止観)、戒は僧としての心得と言えます。天台寺門宗ではさらに、日本古来の山岳信仰を仏教と融合させた修験が加わります。これら宗旨を学び、自分にあった教えを深め、悟りに到ろうとするのが天台宗です。このため天台宗のお寺は、お寺によってお勤めが違います。このことから天台宗は仏教のデパート、他宗は専門店とも例えられます。

このように天台宗はお釈迦様の教え全てを大切に扱うため、総合仏教化し、多くの宗派誕生の母体ともなったのです。



『うちの宗は天台宗』  
藤井正雄 双葉社

## ■編集後記

哲済  
創刊号が出来上りました。前からYUJのよ

うな小冊子を作るうとは言ってたけど、今回は全くの思いつきで作っちゃいました(笑)。

香祥  
作ると決まってから改めてちゃんとお寺のことや仏教のことを本で読んでみたけど、知らないことだらけで冷汗ものでした・・・

哲済  
そうやね。今回記事の最後に写真付で紹介しているように、色々な本を参考にしました。これらの本はお寺でも閲覧できます。

香祥  
では次号の予定はまだ未定ですが、またお会いしましょう！

平成二十年八月一日発行  
編集・発行 金倉寺  
発行人 村上法照  
お問い合わせは  
〒七六五-0031  
香川県善通寺市金蔵寺町二六〇  
TEL 〇八七七一六二一〇八四五  
yuj@kagawa-konzouji.or.jp